祝入学　新入生に一言

高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南
町中一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　山中忠史

よろこびは

よろこびは
自づとわくものだ
心の用意が出来ると
自づとわくものだ
用意しろ
用意しろ。

よろこびはたえず
人の心に来たがっている
大事なお客様だ
用意しろ
用意しろ。

武者小路実篤
詩集より

意義ある高校生活を

友と共に学びあう

☆「三年間」これは長い。し☆
☆かし、意外とこの間を粗末☆
☆にしがちである。高校3年☆
☆間、青春の中の3年間を何☆
☆となく過す。または、隣の☆
☆人と点の競争をしたり、親☆
☆をよろこばせるための勉強☆
☆であってはいけない。自分☆
☆のできる限りを発揮し、勉☆
☆強、クラブ活動に、友と共☆
☆に助け合う高校生活にした☆
☆いものだ。　☆

根津校長

新入生の皆さん「入学おめでとう」心から本校入学をお喜びいたします。

私はいま「おめでとう」と申しましたけれど、いったい何がおめでたいのか、一度よく考えてみようではありませんか。難関を突破して本校に合格したからおめでたいのか、それだけだとすると、他人の不しあわせの上にのって「おめでとう」というのでは何だか淋しい気がします。

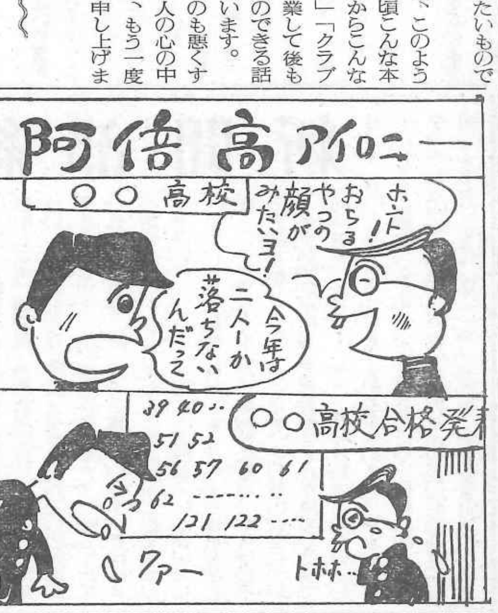
だれもが皆一様に「おめでとう」といえるのは今日からは諸君全員が「共に学べる」幸福をかち得たということではないでしょうか。「学べる」はずの学校へ入ったのに、学ぶことをしないで三年間を終ってしまう若者が、意外に多いものです。

中学時代には「高校への入学試験」が目的であったために、「学ぶことのたのしさ」を体験しなかったことと思います。定期考査や入試のためにのみ勉強して来たのではないでしょうか。高校生の中にもこのような人も居ります。しかし、勉強ということは、実は自分との戦いであります。隣りの人との点とりの競争でもなく、人に敗けないように頑張ることでもなく、ましてや親がいうから、先生がすすめるから頑張るのではない誰のためではなく、自分の心と頭脳を出来る限り使ってみようとする自分との戦いであります。未知の世界に疑問をもち、新しいことを求めて勉強しようとする意欲を燃やすことです。

学校というところは、多くの友達のいるところです。お互いに助けあう集団生活を営んでいるところです。「友人との競争」という意識ではなくして、共に学ぶことの喜びを味ってもらいたいものです。

「私の高校時代には、このような友達がいた」「その頃こんな本を読んだ」「何々先生からこんな有益なことを教わった」「クラブ活動の思い出」等、卒業して後もほこらしげに語ることのできる話題をもってほしいと思います。

高校生活をよくするのも悪くするのも、諸君達一人一人の心の中にあることを指摘して、もう一度「入学おめでとう」と申し上げましょう。


阿倍高アイロニー
○○高校
ホ・ト！おちるやつの顔がみたいヨ！
今年は二人一か落ちないんだって
○○高校合格発表
39 40…
51 52
56 57 60 61
62 ……
121 122 ……
ワァー
トホホ…

部説

高校生としての自己を知れ

一年生の諸君、入学おめでとう。君達は苦しかった受験生活を乗りきり、みごと合格した今どんな思いだろうか。きっと胸に満ち足りない希望と不安でいっぱいだろうと思う。

中学生の頃、よく高校生になれば、何でも好きな事ができるのにと考えたものだ。しかし、高校生とはそんなあまいものでないことを諸君も、高校生になった第一歩のところで考えて欲しい。

高校生活とは、中学生の時のように夢に描いたほど、自由なところではない。勉強も中学の時よりずっと、内容も難解なものが多く、宿題も決して少ないものではない。毎日の予習・復習をかためて、日曜日なんて考えていると、それがだんだん積もり、後で泣かねばならないことになりかねない。高校生だから、多くの時間、勉強しなければならないと考えるものではないが、やはり短時間でも充実した学習をして欲しい。

それから、高校生活にはいって一番切実に感じるものは、「友情」についてではないだろうか。中学生の時いっしょに楽しく遊んだ友はいろいろいたが心から信じていた友、つまり親友ができなかった人も、諸君の中にいるだろう。

高校でできた友は、一生忘れられないものだ。中学の時からそんな友がいればそんな幸福なことはない。その人は、この高校生活でそれをいっそう実らせて心の宝にして欲しい。だが、そんな人はなかなか少ないのではないだろうか。だからぜひクラスやクラブですばらしい友を作って欲しいと思う。

クラブと言えば中学生の時のように、中途半端な考えや興味本意で入らないで、決っして後悔のないものにして、与えられた苦しさとエネルギーを爆発して欲しい。ちょっとオーバーな言い方だけど、六時間の授業の疲れを、このクラブでいやしてみてはどうだろうか。先輩達と汗を流すも、考えるも、高校生でなければできない時間ではないだろうか。

諸君も自分にあったよいクラブを選び若さをためしてみてはどうだろうか。

また、高校時代には、多くの悩み事ができる。人間関係においても、他人の短所などいろいろといやな反面を見るとつい自己というものを忘れがちになってしまう。

だから、この時代で諸君もいろいろな環境を通して自己を知って欲しい。

高校生活は人生の一部であるが、この青春時代はとても貴重な時代だと思う。

前に高校生活は決っして、自由ではないと言ったが、高校生としての自覚があれば、高校生活ほど、自由なものはないと胸を張って言えると思う。

護衛入試決行

◇ある少数の者によって大学・高校の卒業式が妨害され、入試も、受◇
◇験生の不安を高め、学校側の心配を招いたが、一部の大学を除いて◇
◇は、平穏に終え、又、どの高校とも、ビラを配る程度で、騒ぎも起◇
◇らず終え、我が校も無事終了した。◇

三月十七日（月）に公立高校の入試がいっせいに行なわれた。

今年は、大学の入試阻止の運動があちこちに起こり、卒業式紛砕を叫ぶ運動が、高校にまでおよんだので今年度の入試はどうだろうかという心配があった。

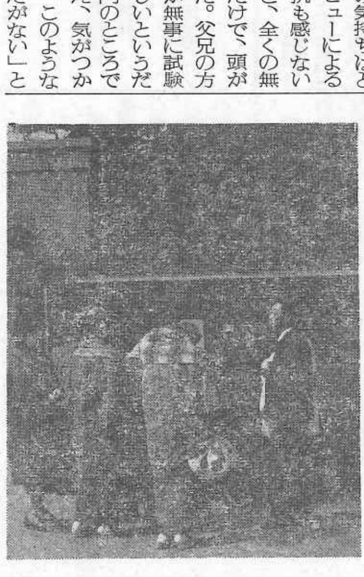
いくら我が校の生徒を信用していても、某校のように、他校の生徒がきて妨害されないとも限らないので、教育委員会からの通達の通り、入試前日には宿直を十人に増やし、当日は寒い中を道路の角ごとに、一～二名の先生が交代に警備された。そして学校の門の前には、四～五人の先生が、受験生と父兄以外はシャットアウトし、猫の子一匹でも、入らせないぞといわんばかりに、警戒しておられた。又、私服の警官が四人、学校の囲りを警備した。

このような厳しい護衛の中で、受験する生徒の気持ちはどうだろうか。又このような環境の中へ受験生を送り出す父兄の気持ちはどうだろうか。インタビューによると、生徒は「何の抵抗も感じない」「何も思わない」と、全くの無関心で、試験のことだけで、頭がいっぱいだったようだ。父兄の方も、ただ自分の子供が無事に試験を受け、とおってほしいというだけで、先生方が、校門のところで見張っているのでさえ、気がつかなかったそうだ。又、このような様子を見て、「しかたがない」とあきらめムードの父兄の方もおられた。

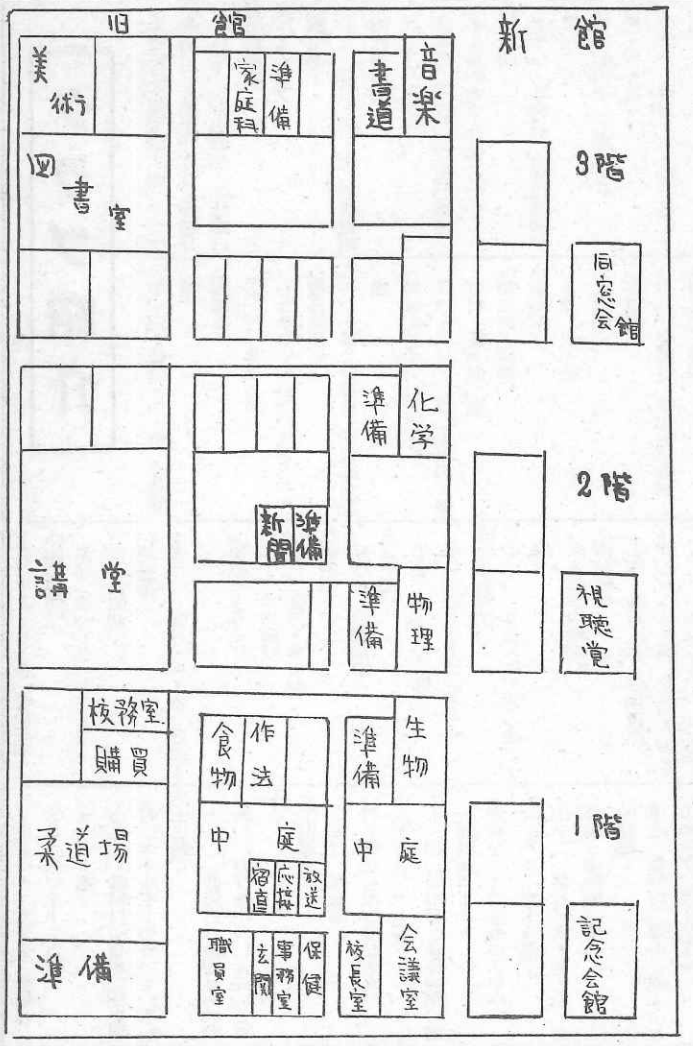
しかし、このような警備も無駄にはならなかった。試験も山場を迎えた二時すぎ、怪しい少数の学生が、校門の前で何やら計画。これを怪しいと思った先生方は校長先生をはじめとして総出動。多人数に圧倒されたのか、学生達は退散した。これでひと安心と思ったのもつかの間、試験もおわり受験生達が帰りかけると、先生の目のとどかない、物陰でビラくばり、早速、先生が行って中止させた。

この怪しい学生達以外は、全く静かで、無事入試を終えた。

▽…………△



心配そうに見守る父兄



針の穴

新入生の諸君、夜も寝ずに、健康のために、授業中いねむりして過した受験勉強ともお去らばして待望の一流校阿倍野高校（？）に入学でき、こんなうれしいことはないでしょうナ▼針子もやっといびれるようなカワイイおちびちゃんが出来てとても楽しみで胸がわくわくしていますヨ▼ところで、発表の日の感想はどうでしたかナ　パスした時の感激、「全々なし」「そうでしょうね」▼入試は妨害されずに無事に終了したけれども発表の日の午後からの、帽子・体操服などの売場の混雑ぶり、あのせまい廊下で三百人近くがわれ先に買おうとして押し合い（誰、あの中で喜んでいたのは？針子ずっと見ていたのよ）全学連のデモ以上、それも、今年だけじゃないんですナ▼前々からずっとこのような状態、学校側はいったい何をしてなさるんですかナ▼でも親までいっしょについて来て（何んて？お母ちゃんのそばをはなれるのをいやいやといっているのは。針子もうしらない）まあ、新入生諸君、しっかりして下さいヨ▼しっかりといえば、勉強に、クラブに、それに異性との交際に（あなたの顔では少し無理と違う？あ、どうも失礼！）に夢をふくらませているだろうが高校生活はそんな甘いもんやおまへんで、勉強しようと思えばクラブができなくなるしナ▼阿倍野高生とはとかくそんなもんやおまへんヤン▼ア、うっかりボロだしてしまったですナ▼でも今回の一年生はしっかりした者が多い？と見受けられるようで幸いに安心しますがネ▼ついでにボロがでたところでもう少しボロを出しましょうナ、阿倍高生の特徴は自習好みと食堂通いが有名ですネ、なにしろ授業放棄してまでウドンのしるを全部すするんですからナ▼まあこの辺でやめまひょ。先生がうるさいし、二・三年生のプライバシー侵害ですからネ、まあこんなところでおマス▼まあごちゃごちゃ書きましたけれども、あなた達は運動に勉強にガンバッテ、かっては東大に入った先輩や、甲子園の土を踏んだ先輩達の名をけがさないようにネ▼じゃこの辺でさよならでおマス。今日の針子は男みたい、いやだワー。　針子

特集 スタートされた高一

学校紹介 〃阿倍高を知ろう〃

新入生のみなさん、ご入学おめでとう。長い苦しい受験準備時代も終わり晴れて高校生となった今これからの高校生活に、中学生時代とは、また違った新たな夢と希望を抱いていることだろう。ここでみなさんに、本校のことを知ってもらうため、我が新聞部では、この紙面を利用して、阿倍高紹介という特集を行なった。我が校の特色、学園的なのんびりムードであることや、やや女尊男卑型であることなど……。諸君、はやく阿倍高に慣れてくれたまえ！

高校生活、阿倍高生活への期待と不安でいっぱいの諸君に、我が校はどんな学校なのか、裏面から少し紹介してみよう。

この高校は、もと女学校であったが、昭和二十三年に、当時の住吉中学（現在の住吉高校）の男子と半々に交流し、それ以来、姉妹校として、我が校と交流が続いている。その交流の表われとして、毎年一回五月に、住高戦（住高では対阿戦という）と呼ばれる行事がある。一年交替で、両校交互にその運動場、体育館を使用し合い両校の運動クラブが、その技を競い合うというものである。みなさんの中には、住高へ入った友人を持っている人も多くいることだろう。住高戦の時に、久しぶりに友人と会って話をしたり、又、新しい友人とそれぞれの試合を見たりするのも楽しいものである。試合の勝敗は、ここ四年間、我が校の連勝である。今年の住高戦は、阿倍高で行なう事になっている。これが行なわれるまでを待つ事も、楽しみの一つである。その時は諸君も、充分に楽しんでくれ。

又、前にも話したとおりこの学校は、女学校であった。その加減か女生徒が男生徒よりも勢力が強いと言われている。まず、第一にこの学校の特色を述べるとすれば前にあげた事、すなわち『女尊男卑』ということであろう。封建時代から現代までを『男尊女卑』、現代を『男女平等』とすると未来は多分『女尊男卑』になると言われている。いや、現代はもうそろそろ『未来』の傾向になりつつある。と言う人もあるが、その考え方でゆけば、阿倍高はまさに流行の先端を切った、未来の第一歩を踏み切っている高校だと言える。何と楽しい、いや男子諸君にとっては、なさけない話であろうか。と言っても、全く悲観することはない。なぜかというと、いかに女生徒が強いと言っても態度に示しているわけではないからだ。力では、もちろん男生徒の方が強いに決まっている。要するに男生徒の精神面に気迫が足りないということなのである。そこで、新入生の男子諸君、発奮して、女生徒を圧倒させるくらいの気迫を持つように頑張ってくれたまえ。

ここで他面から見た阿倍高についてあげてみることにする。

一口に言うとのんびりムードの学園だと言っても過言ではないだろう。のんびりした学園ムードとだけ言っても漠然としてわかりにくいだろうが良い面、悪い面とも幅広く本校は、それらを含んでいる。中学校とちがって、大っぴらな男女交際ができるというのも良い面の一つなのである。だれもが高校生になったら、と一つの希望として『男女交際』のことを考えているだろう。そう考えている人にとっては、学園ムードなる『男女交際』はありがたいものであるそこで、本校の修学旅行などは、他校にはない、良いチャンスにめぐまれている。

又、反面、全部が全部、そうであるとは限らないが、勉強をするにしても、だらだらしていてけじめがついていない。新学期のうちはまだ緊張感があり、計画をたてて行動しているが、学校に慣れるとだんだんのんびりムードにおされてくるようだ。

それから、今、高校生でも騒いでいる学生運動に対してや、又、本校生徒の最大機関である自治会に対しての我々の関心度が少ないというのも、阿倍高生の特色である。これらの不活発さは、ここ最近ではない。

さらに、自習時間やカットが、中学校時代に比べて、多くなってくる。多い日など授業時間の半分が、自習やカットになることもある。諸君、ここで喜んでいてはいけない。これに対する対策、その時間をいかに有効に使うか、ということを考えてみてくれたまえ。

これぐらいでは、充分我が阿倍高の様子を知るというわけにはいかないが少しぐらいは、わかっていただけたであろう。新しい気持ちで、阿倍高生の道を、一歩一歩切り開きながら、進んで行こうではないか。

私の経験

二年Y・F

僕がこの学校に入ったのは、ちょうど二年前であった。

母と共に入学式に出席した時そこでの先生の言葉に驚かされた。単位を一つでも落とせば落第というのだ。けれども欠点なんてまァ取らないだろうと思っていた。

しかし、あくる日からの授業の英語がむずかしいこと。これには驚いた。たった一ページだけで調べる単語が四十以上もあるのだ。先生が、高二並のであるから少しむずかしいと言われた。少しどころか中学の時とは比べものにならないほどだった。

数学も初めのうちは理解できたものの、急にむずかしくややこしくなっていった。

毎日家に帰って必死になってしなければ、とてもついていけない。そんなこと僕には不可能に近かった。というのは、体育が厳しく僕のような者は、すぐに疲れてしまい家へ帰っても、すぐに眠ってしまう状態。

そんな調子だから、だんだん英語・数学などがわからなくなっていった。それだけでなく、そんな体育の厳しさに、学校へ行くのがいやになってきて、休みたくなったのが何度となくあった。そんなたびに高校という所がこわく恐ろしくなって、なぜこんな所へ来てしまったのだろうか、なぜ中卒で就職しなかったのだろうか、果てには、この世において自分の存在価値というものは、ないのだろうかと思ってしまったものだ。

決してなるな 敗北の人間に！

アメリカでは、十三日の金曜日がいやがられているが僕は木曜日の一時間目がいやでたまらなかった。というのは、今はもう退職されたが体育においてたいへん厳しい先生の授業があったからだ。

そのうち、一学期の中間テストがあった。ほとんどといってもよいほど勉強していなかった結果はもちろん……であった。

悲しかった、自分が敗化の人間になっていたことが…。

夏休みで更にだらけた。体育の厳しさからほぐれたからであろうか。

その結果、二学校の成績はがた落ち。そのまま冬休みを向かえ、アルバイトをしてまただらけた。そして三学期、あっという間に過ぎ去った。落第は不思議にもまぬがれた。

ところで、この一年間僕が皆勤で通せたのは、クラブの楽しさがあったからだろう。つらい日もクラブの楽しさが、僕を学校に運んだ。六限目の終了後クラブへ行く時の楽しいこと。もちろんクラブでも、つらい時もあった。先輩に叱られた日、しかし、自分が叱られれば、叱られるほど、それだけ成長していくのだから、やはりクラブへ入って良かったと思っている。

今はもう体育にも、学校にも慣れた。そんな時、新一年生がうれしそうな顔をして入って来ているのである…。

生意気にこんなことを書いてしまってすまないと思っているしかし、新入生には、これを参考にして、より良い高校生活を送ってもらいたいもんだ。

クラブ紹介

本校には全部で四十四のクラブがある。ごく簡単ではあるが紹介してみた。（①部員数　②活動日　③活動場所）

文化クラブ

△図書部▽
①九　②月・水・金　③図書館内図書部室
△ブラスバンド部▽
②毎日　③校門左手奥の部室
〃やる気のある人はどうぞ〃
△放送部▽
①十二　②毎日（土曜は部会）　③一—七
〃日本語を正しく話そう〃
△E・S・S▽
①二八　②月・水・金　③二—八
〃楽しいよーん〃
△映画研究部▽
①八　③二—六
△演劇部▽
②週に三回　③二—五
〃美男美女のためのクラブ〃
△音楽部▽
①一六　②月・水・金　③音楽室
△華道部▽
①一五　②金　③二—一
〃しとやかになりたい人どうぞ〃
△軽音楽部▽
エレキ班…②毎日　③視聴覚教室
〃興味のある方はどうぞ〃
フォークソング班…①二四　②毎日　③新館二階
〃特に男子募集〃
△茶道部▽
②月・水・金
△社研部▽
△写真部▽
①八　②毎日　③化学準備室
〃特に女子募集〃
△宗教研究部▽
△書道部▽
①一一　②火・木　③書道室
〃字に情熱のある人大歓迎〃
△生物部▽
①一六　②毎日　③生物室
△煎茶部▽
②月・火・水・金　③作法室
△地理研部▽
①九　②火・金　③二—三
〃女子大歓迎〃
△点字部▽
①一〇　②月・火・木　③二—二
〃気軽にどうぞ〃
△ハーモニカ部▽
①六　②月・木・金
△美術部▽
②毎日　③美術室
△文学部▽
①五　②木・土　③三—一
〃やる気のある人はどうぞ〃
△歴史研究部▽
①二〇　②月・火・木　③二—四
〃新入部員大歓迎〃
△洋舞部〃
①四　②月・木　③体育館
〃ガムシャラに踊りたい人どうぞ〃
△珠算部▽
①八　②月・木・金　③一—四
〃新入部員大歓迎（特に男子）〃

運動クラブ

△剣道部▽
③体育館
△硬式庭球部▽
①男子一一、女子九　②毎日　③テニスコート（右側）
△サッカー部▽
①二〇　②毎日　③第二運動場
〃若いエネルギーを待っている〃
△山岳部▽
①一〇　②毎日（金曜は部会）
〃楽しい山行をいっしょにしませんか〃
△柔道部▽
②毎日　③道場
〃君も男ならはいりたまえ〃
△女子バスケット部▽
①一四　②毎日　③体育館、第一運動場コート
〃青春をぶっつけろバスケへ〃
△女子バレーボール部▽
①一二　②月・火・水・金・土　③第一運動場コート
△水泳部▽
①七　②毎日　③冬—陸上トレーニング、夏—プール
〃特に女子募集〃
△体操部▽
①一一　②毎日　③体育館（月・木）、運動場
△卓球部▽
②毎日　③講堂
〃未経験者もどうぞ〃
△男子バスケット部▽
②毎日
△男子バレー部▽
②毎日　③第一運動場コート
△軟式庭球部▽
①男子一〇、女子一〇　②毎日　③テニスコート（左側）
〃経験あるなしにこだわらずどうだ〃
△ラグビー部▽
①一五　②毎日　③第二運動場
△陸上部▽
①男子七、女子六　②毎日　③第二運動場
〃最も充実したやりがいのあるクラブ〃
△ワンダーフォーゲル部▽
△野球部▽
①六　②毎日　③第二運動場
〃このクラブに青春をかけよう〃
△ハンドボール部〃
①六　②毎日　③第二運動場
〃無限の力を試そう〃

なにしろ取材期間が短かかったため、ところどころ抜けているところがあるがご了承ください。

理想多き考え方

インタビュー結果

去る三月二十日、入試合格発表の日の午後から新入生及びその父兄達にインタビューを行なった。

みんな快く答えてくれ、本当に我が新聞部としては、仕事がはかどった。そのインタビューの内容とそれに対しての答えなどを伝えることにする。

まず、最初に「**阿倍高の第一印象は何ですか？**」という問に対し新入生は「緑が多い」「学園らしい」「中庭（第一グラウンド）がとてもきれいだ」「校舎が古めかしい」「汚ない」「設備が古い」などで、又、父兄では「緑が多いが汚ない」「校舎が古いせいかもしれないが全体的に汚ない」という答えだった。何にでも「汚ない」という言葉の連発だった。

又、中には「これでいつも掃除をしているんですか？」というような、反問をする人もいた。

次に「**なぜ阿倍野高校を選んだのですか？**」に対し「家から近いから」「先生に勧められたから」などが大半だが、「阿倍高は、もとから第一志望として決めていたし」「校風が好きなので」「高望みをして受験したら、何とか合格できた」という例にない返答もあった。

元来、阿倍高生は自分の学校を「何や、こんな学校」とか「何事にも中途半端な学校や」と言って他校と比較し、随分卑下している。それで、いつまでたってものんびりムードだと言われるのである。ですから新入生諸君は、「これが我々の学校だ」と思い、立派な成績を修めて、より良い学校にしてもらいたいものだ。

三番めに「**クラブにはいりますか？**」に対して「はいります」という人が大分多く「はいらない」と言った人は少なかったようだ。「はいります」と言った人の中の大半が運動クラブだった。なぜ運動クラブかと[illegible]「かっこいい」「青春を[illegible]ぶつけたい」という意見だった。それらのクラブにはいる限りは、途中に脱落しないように[illegible]。

四番めに「**高校生活をどのように過ごされたいですか？**」には「積極的に」「クラブと勉強を両立させて」「自由にのびのびと生活したい」「充実した生活を」などの答えだった。

我々から見た新入生諸君は、積極的でしっかりした意見を持っているように思った。

新聞部紹介

新入生のみなさんもうクラブをお決めになったでしょうか？え、まだですか。それなら新聞部をお勧めします。新聞部はいつでもあなたたちを歓迎します。楽な気持で、南舎二階の新聞部室へいらして下さい。

さて、ここで新聞部というクラブをもっと深く紹介しますと、まず新聞部は年に五回（五月、七月、十月、十二月、二月）を発行します。つまり始業式、文化祭、卒業式などの学校行事の時に発行するわけです。さらに、あなたたちが現在、手に持っている新聞は号外として発行しています。次に新聞部の主な仕事を紹介しましょう。最初に部員[illegible]企画会議を行ない、[illegible]を決めます。[illegible]一面に載せる[illegible]。[illegible]取材をします。つまり資料を集めるわけです。そして新聞の割りつけをすませ、学校側の検閲を通して、印刷工場に出稿するわけです。次に校正、再校をすませ、全阿倍高生の手に配られるのです。以上が主な仕事ですが、これは単に新聞を作るということにあたってのことだけで、毎日毎日がむずかしい顔ばかりしているのではありません。ハイキングに行ったり、スケートをしたり楽しいこともたくさんあります。

喜びも悲しみも苦しみも、共にしようと思っている人は今すぐに、南舎二階の新聞部室へ来て下さい。私たち美男美女は、いつでもあなたたちを歓迎します。

編集後記

今回の新聞は、少しでも新入生の皆さんに阿倍高を知っていただこうと思い号外として発行しました。ところが記事が少なく、その上に登校禁止などで日数がなかったため、あわてて相談もできなかった次第。一面の校内見取図において、空白のところは普通教室となっており、編集当時未定であったので、お見苦しい点、深くおわびいたします。本年度の校内見取図は職員室前に掲示されます。

なお疑問点及び意見がありましたら気軽に新聞部まできて下さい。

又、新聞部では新入部員を募集しています。皆さんの入部を心より期待しております。御協力お願いします。